

sustainability report of cosmos more

カスモア

“Creating Shared Value”

事業を通じた社会課題解決へ

2015

特集01

社会と会社を持続可能にする
商品開発プロジェクト「サスラボ」始動

特集02

陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト
復興への想いと力を集めクラブハウス建設



株式会社コスマスモア
取締役 小川陽平

サスモア2015 発行によせて

2014年度のCSR活動も無事終了し、社員の皆さん、並びにご協力をいただいたステークホルダーの皆様に心から感謝申し上げます。

2014年度の私たちの大きなトピックスとしては、2013年から進めておりました「陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト」におけるクラブハウスの完成です。サッカー界を代表する著名な方々のリーダーシップの下、本業での強みを活かしたこのプロジェクトは、私たちの自信と誇りに繋がりました。

そして、私たちの活動が世の中でどのように支持、評価をいただいているかのベンチマークでもある、CSRレポートランキングサイトの「CSR JAPAN」では、2014年の年間検索ランキングで全国第3位という過去最高の成績を収めることができました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。一方、方針に掲げていた福島県への支援活動は十分な成果を挙げることができなかつたのは大きな反省点です。

さて、2015年度が本日より始まります。パートナー企業との協働で進めている「CSVプロジェクト」も本格的に商品化が進み、ユーザーからの評価をいただける準備が整いました。「社内活動から本業を通じたCSR活動への転換」とスローガンを掲げた2年目、本格稼動への期待が高まるコスマスモア第27期のスタートです。

CSR活動 取り組み

2014

4月11日	キックオフミーティング CSRトークセッション
5月9~10日	陸前高田視察
5月26日	サスラボキックオフ + 懇親会
7月13日	大阪営業所 チャリティゴルフ
7月17日	陸前高田クラブハウス上棟式
7月27日	eco検定(環境社会検定試験)試験
8月8日	CSR推進室 福島視察
8月29~30日	安全衛生協力会 東北視察
9月10日	東京商工会議所 講演 + ワークショップ
9月20~21日	早稲田カップ Powered by adidas2014、 ウッドデッキづくりワークショップ
9月23日	SMILE CUP(チャリティフットサル大会)
10月7日	ITOJIオフィス見学
10月14日	コスマススポーツフェスタ
10月28日	東京おもちゃ美術館見学
11月22日	陸前高田クラブハウス完成祝賀会、ウッドデッキづくりワークショップ
12月2日	サスモア編集委員キックオフ
12月14日	eco検定(環境社会検定試験)試験

2015

1月15日	陸前高田クラブハウス寄贈式、サッカー教室
1月23~24日	CSR推進室 福島合宿
2月7日	SMILE CUP(チャリティフットサル大会)

サスモア 2015

“Creating Shared Value”
～事業を通じた社会課題解決へ～

04 特集01
社会と会社を持続可能にする
商品開発プロジェクト「サスラボ」始動



08 特集02
陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト
復興への想いと力を集めクラブハウス建設



10 特集03
東日本大震災復興支援レポート

- ・コスモススポーツフェスタ 岩手県産りんごを景品に
- ・協力会社と「被災地南相馬を訪ねる旅」
- ・CSR推進室が福島県を視察
- ・いわきの起業家支援スペース その後



16 コラム 緒方克吉、かく語りき
ロードマップ コスモスマアのCSRの軌跡



18 デザインに込めた想い
編集後記



19 社員フォトコレクション
20 MAIN & SEEDS
寄付・社員ボランティア支援分野の枠組み



特集
01

社会と会社を持続可能にする商品開発プロジェクト「サスラボ」始動

これまで事業活動への布石として継続してきた寄付やボランティア活動。

いよいよ本格的に本業を通じた社会貢献に挑戦する「CSVプロジェクト」は、

人工林の荒廃問題を解決するため、国産材を活用した商品開発でスタートを切りました。

2014年5月、部門を横断したチームメンバーが招集されたのは、国産材が使われた赤坂のビジネスラウンジ「T-TIME」。2013年度からミッションとして掲げていた「本業を通じた社会貢献」への商品開発プロジェクト「サスラボ」がいよいよキックオフの時を迎えたのです。

振り返れば、2013年度までのCSR活動では、本業での取り組みを模索しながらも、活動の中心は、「本業の周辺での取り組み」でした。しかしながら、本業を通じて社会課題解決を行う方が貢献度も高まり、また、自社が競争力を磨き、サステイナブルであればこそ、社会課題解決へのアクションも持続できます。そのような考えから、2014年度以降は、世の中の課題解決に取り組むことで社会的価値を創造しつつ、本業を通じて経済的な価値も生み出す「CSV=Creating Shared Value=共通価値の創造」へ進化する時期と位置づけました。

コスモスマガジンが建築業に携わる中で、林業や森林の課題に対して今一度向き合う必要があることから、サスラボ第一弾のテーマに決定したのが「国産材を活用した商品開発」です。本プロジェクトの企画運営にはHITOTOWA INC.が参画。森づくりと国産材プロダクトのアドバイザーには、一般社団法人モア・トゥリーズを迎えました。同法人とは、これまでの「寄付支援先」から、「共有価値を創造するパートナー」という関係性に進展できたことも喜ばしく感じます。メンバーは、2チームに分かれて市場環境分析や商品コンセプトの策定を行い、毎月のワークショップで協議を重ねながら、商品と販売戦略を検討してきました。



PARTNER



moreTrees®

一般社団法人
モア・トゥリーズ
事務局長
水谷伸吉さん



森林・林業も含めた世の中の社会課題を解決するためには、NPO単独の活動ではどうしても限界があります。NPOといえども、経済活動は度外視できません。

一方、企業は従来のメセナ的なCSRから、より本業に即したCSRが求められています。企業とNPOが協業することで、お互いにこれまでになかった視点を持つことができ、シナジーが生まれます。

今、企業とNPOとの連携が必要とされている時だと感じています。



日本の森が直面している課題とは？

日本は、国土の約7割を森が占める、世界有数の森林大国です。その内、約4割は人口林。戦後の復興期、建築に必要なスギ・ヒノキがたくさん植林されたのです。

しかしながら、昭和30年代、木材の輸入自由化により外国産の木材が安価で流通。国産材の需要は大きく落ち込み、日本の森林は放置され荒廃していきました。人口的に作られた森林は、枝打ちや間伐など、人の手による整備が必要です。手入れされない森林は、日光が入らず細い木となり、二酸化炭素を吸収する働きも低下。保水力が低下した山は土砂崩れの危険性も増します。

世界では、森林伐採によって生き物が棲む場所を追いやられているケースもあるので、木を切ることは良くないというイメージがあるかもしれません。しかし、日本の場合は、木材を使った商品を作り、その需要を生むことは、荒れた森が適切に手入れされ、森に棲む生物の多様性を育むことにつながるのです。

ウッドチップを使用した防臭剤



Aチーム：インテリア商品・サービス

- ・土居 直人：大阪営業所 デザイン設計課
- ・門脇 毅佳：大阪営業所 住宅課
- ・板垣 直子：デザイン設計課



木製の表札

国産材でインテリア商品を開発

オプション販売会で
お披露目！

Aチームでは、比較的安価なものを数多く販売することが森の環境改善につながる考え、購入しやすい価格帯の国産材商品を開発し、インテリア販売会で販売することを目標にしました。販売会でアンケート調査を行い、木製商品に対する消費者ニーズも分析。数々の商品アイデアの中から絞ったものが、木製フレームのミラーとヒノキのウッドチップを使用した防臭剤、そして木製の表札です。今後は、日本の森の現状を伝えるムービーの制作や、他商品との差別化を図る販促ツールの制作など、プロモーションにも力を入れていく予定です。

会社が
癒やしの空間に！

オフィスで「大人の木育」

Bチームでは、「大人の木育」をコンセプトに、国産材の空間商品の開発に取り組みました。綿密な議論の末、木製のブースを考案。2人掛けを1ユニットとし、会議室やリフレッシュスペース、エントランスなど、広さと用途に合わせてユニットを増やせるので、提案の幅は広がります。チームメンバーからは、「被災地復興支援のために木材は東北から調達したい」という声も挙がっています。「国産材×復興支援」という掛け合わせのアイデアを、社員が自発的に考えられるようになったこともプロジェクトの成果の1つです。

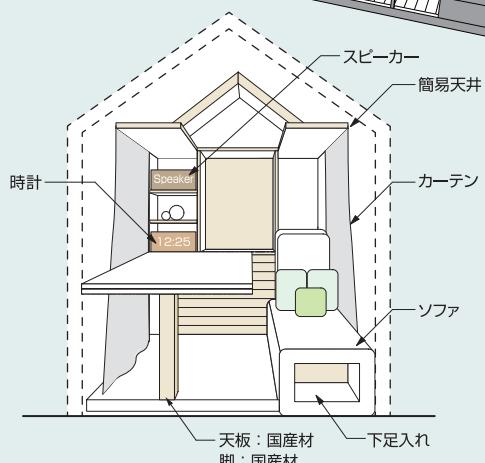


Bチーム：住宅・オフィス・サービス・リノベーション商品

- ・寺本 亮介：ファシリティ2課
- ・生沼 篤史：大規模改修事業室
- ・仲 久美子：マンションギャラリー課



木製のブースイメージ





社会的価値と 経済的価値の創造へ

こうして一步ずつ前に進んできたCSVプロジェクト「サスラボ」。2015年度中に販売・受注という結果を出すべく、さらに邁進中です。



このプロジェクトのミッションは、社会的価値の創造として、日本の森林保全と森林に関わる産業の活性化を目指し、経済的価値の創造として事業利益を上げること。今後、その両立が問われることになります。



政府は、2020年までに、現在約28%の国産木材自給率を50%まで引き上げる目標を掲げています。開催予定の東京オリンピックはその追い風となるでしょう。そのような動きの中で、今回の国産材を活用したサスラボの取り組みが貢献できることを望みます。



また、本業として取り組むということは、「経済的価値」の中に、事業推進に必要な能力や本業における知見の強化など、企業資源の底上げがもたらす「長期的な利益」が含まれるかもしれません。



新たな連携や 発展事業も視野に

2014年度のサスラボのチャレンジでは、既存の社内事業やパートナーと連携した商品開発のポテンシャルも発見できました。例えば、新規事業である「介護施設」の国産材化や、国産材を利用した木造耐火建築物の建設、あるいは、住宅デベロッパーと国産材マンションブランドの共同開発といった可能性もあるかもしれません。また、そのような連携の発展から、社会的価値創造の範囲も広がっていくでしょう。



今後のサスラボに是非ご期待ください。

「サスラボ」の行方やいかに?!
こちらのWebサイトでレポート中!

SUSLAB <http://suslab.biz/>

特集 02

復興への想いと力を集めクラブハウス建設 陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた陸前高田市では、市の運動公園なども被災。身近な学校のグラウンドさえも仮設住宅が建設されたために、市民の皆さんが出でる場所を確保することが困難な状況が続いています。

そこで、「子どもたちが思いきり体を動かせる場所をつくる」とサッカー元日本代表主将の加藤久さんが立ち上がりました。その想いにサッカーファミリーや、多くのボランティアが賛同。気仙町上長部の瓦礫が集められていた土地で「陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト」が始まりました。

2012年にはグラウンドの芝生化、2013年にはネットフェンスの設置が行われましたが、更衣室やトイレがなく不便なことや、グラウンドの管理業務を行う事務所が必要とされていたことから、2014年にはコスマスモアも参画し、クラブハウスの建設プロジェクトがスタート。東京での会議室提供や設備調達といった物的支援から、プロジェクトの進行補佐、役所調査、基本設計図・外観パースの作成、プロボノ支援まで、現地にも何度も足を運び、プロジェクトのサポートをさせていただきました。



環境配慮型のクラブハウス

この度建設されたクラブハウスは、地元の木材を利用して作られ、太陽光発電も設置。間伐材を燃料とするペレットストーブや、微生物の働きで排泄物を分解するバイオマストイレを導入するなど、環境配慮型の施設になっています。また、キッチン設備やLED照明、シーリングファンなどは、マンションギャラリーにて使用されていたものを再利用しました。

地元の企業が設計・施工を行い、ウッドデッキの設置と塗装のDIYワークショップには、近隣の小学生たちも多数参加。東京から大学生や寄付支援者も駆けつけ、多くの方々の力を合わせることで、見事完成に至りました。

今後は、シンボルツリーの植樹、製氷機の導入、支援者のネームプレートの設置、グラウンドの拡張整備や照明の導入など、よりよい環境づくりのため、さらに取り組んでいく予定です。

左から加藤久さん、久保田副市長、戸羽市長、山田教育委員長、川澄奈穂美さん



陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト プロジェクトリーダー 加藤久さん

大きな震災からの悲しみの中で、子どもたちが生きる力を取り戻すきっかけとなるのは、やはり「仲間と共に働くこと」。

スポーツを通じて子どもたちを元気づけていきたいという思いから、このプロジェクトに臨みました。

被災地の方々は、僕らに何かしてくれとは決して言いません。だからこそ、こちらが現地のみなさんの求めている事を感じ取って提案をしていきたい。地元の人々に寄り添いながら、子どもたちの笑顔があふれる場所にしていきたいです。

復興はまだまだこれから。私たちが忘れないことが被災地の励みになります。

「SAWA and Friends」と市に寄贈

2015年1月、クラブハウスの寄贈式が行われました。澤穂希さん（INAC神戸レオネッサ所属）を中心とした「SAWA and Friends」の皆さんは、過去2回チャリティマッチを開催。その収益金を全額クラブハウスの建設費に充てられました。この日は、川澄奈穂美さんと田中明日菜さん（共にINAC神戸レオネッサ所属）が駆けつけ、加藤久さんと共に陸前高田市長へ目録を進呈しました。

いつも現地の方々と交流する機会を大切にされている加藤久さんの想いから、当日は、両選手たちと陸前高田第一中学校へ訪問。クラブハウス横のグラウンドでは、地元の子どもたちと一緒にサッカーを楽しみ、終始笑顔の絶えない和やかな1日となりました。

今後も、このクラブハウスがスポーツと健康づくりの拠点に、また地域のコミュニティの核になるよう、引き続き支援させていただきます。



東日本大震災 復興支援レポート 2014



2011年10月に岩手県陸前高田市でのボランティア活動をかわきりにスタートした東日本大震災復興支援。これまで、当社のCSR活動の大きな柱として、復興支援プロジェクトのプロボノ参画や、社員の有志によるチャリティイベント開催など、岩手県・宮城県・福島県への支援を続けてきました。

2014年度も、今後のプロボノ活動や本業を通じたCSR事業へつなげる種を得るため、現地を訪れ関係づくりを継続しています。

AUG.08



CSR推進室が福島県を視察

協力会社18社の代表・役員を中心に21名にご参加いただき、当社代表の緒方を始めとする役員・部次長7名を加えた合計28名での旅となりました。

南相馬市は、福島県の北部、太平洋に面した地域で、東日本大震災では大津波により甚大な被害を受けた地域です。現地の復興状況を視察するとともに、高畠ワイナリー、笹野民芸館、東光の酒蔵など、この地域ならではの観光資源も再確認することができました。

福島県は、復興支援の中でも、特に重点的に取り組んでいきたい地域として、これまで継続的に訪問と対話、プロボノ参画や次の支援への模索を重ね、つながりを強めてきました。2014年度も、CSR推進室のメンバーで福島へ日帰りの視察を実施。相馬市観光協会との打ち合わせ後、リニューアルした「福島県フットボールセンター・相馬市光陽サッカー場」をご案内いただきました。この場所は、日本サッカー協会が、特に被害の大きかった岩手県・宮城県・福島県の被災沿岸地域で整備を進めてきたフットボールセンターの1つです。午後は、安心・安全な果物の生産・PRに取り組む「ふくしま土壤クラブ」代表の高橋賢一さんを訪問。経営されている果物直売所をご案内いただき、どのような風評被害対策を行っているかを伺いました。

初めての被災地訪問。語り部の方から、報道では知りえない悲惨な状況を聞き、とても心が重く感じました。「忘れない、次回も是非参加する」と決意して帰路に就きました。（コスモスモア安全衛生協力会 会長 株式会社インセリティー 坂本登様）



福島県いわき市の起業家支援スペース その後

NPO法人TATAKIGE Japanが運営する、福島県いわき市の起業家支援コワーキングスペース。立ち上げ支援をさせていただき、2013年7月にオープン後、さまざまな協働プロジェクトがこの地で生まれています。例えば、食の地産地消を進める仲間たちが試作を重ね、いわき産素材100%の野菜スムージー「Hyaccoi(ひやっこい)」を開発。JRいわき駅の駅ビル内カフェでメニュー化されました。

また、中高生向けに、地元活性化プロジェクトの実践支援プログラム「FROM PROJECT(ふろぷろ)」を慶應義塾大学の学生たちと運営しています。「いわきをモデルとして『続く地方都市』のあり方を探り、地方でしかできない面白い働き方や職業を生み出していきたいです」と、同団体理事長の松本丈さん。「仕事がないから都会に出る場所」から、「面白く稼げるから暮らしたい場所」へ。そんな変化をもたらしてくれる未来の起業家へ期待が膨らみます。

NOV.12



AUG.29,30



スポーツフェスタ 岩手県産りんごを景品に

秋晴れの10月、社員のチームワーク向上を目指し、コスモスモアとグループ会社の株式会社コスマスイニシアによる合同運動会「コスマススポーツフェスタ」が大井ふ頭中央海浜公園で開催されました。

入賞チームに授与する景品は、復興支援につながるものという想いから、岩手県産のりんご「ジョナゴールド」、「きたろう」、南部せんべい「いわてさんのみみ」を購入。実は、購入先の岩手食材販売サイト「Olahono」とのつながりは、2013年度にCSR推進室が行った東北視察での出会いから生まれました。

今後も、現地訪問と出会いを積み重ね、復興支援のアクションへと昇華していくよう、取り組みを続けていきたいと思います。

協力会社と「被災地 南相馬を訪ねる旅」

2013年度は、社員有志による東北スタディツアーミニツアーを実施しましたが、2014年度は、被災地への理解を深める輪を協力会社へも広げていきたいと考え、2014年8月29日・30日の2日間、コスマスモア安全衛生協力会事務局の主催により、当社の協力会社と南相馬エリアを視察するツアーを行いました。

「被災地 南相馬を訪ねる旅」参加者の声

被災地に自らの足で立ち、あの震災の凄まじさを感じる事ができました。復興は先の長い闘いです。その闘いの中で自分達に出来ることが何なのか?自問自答する旅になりました。(コスマスモア安全衛生協力会副会長 株式会社ビーエムセンター 土田英雄様)

コスモスモアでは、よりよい社会や環境のために、社員一人ひとりが行動を積み重ねてきました。シーズ支援のための寄付、環境負荷低減など、全社的な活動や各事業部で新たに開始した取り組みをご紹介します。

☆ 繼続こそ力なり！

＼ 続々オープン！ ／



スチールハウス × 介護施設



スチールハウス工法を用いた建物は、耐震性、耐火性が高い上に工期が短く、コストパフォーマンスに優れていることが大きな魅力。当社では、そんなスチールハウスの施工実績を活かし、介護施設への需要の高まりと供給不足という課題に対応する事業を推進しています。

2013年度には、土地オーナーと介護施設運営会社をマッチングするサービスと、スチールハウス工法による介護施設の設計・施工・デザイン事業をスタート。現在、有料老人ホームのグラント上野毛と、デイサービス/ショートステイのカノン三鷹、アズハイムテラス成増の3棟がオープンを控えています。政府は、在宅介護を推進する方針を打ち出していますが、一方で「老老介護」や家族の負担増加への懸念も。

「在宅介護がしやすくなる施設を増やすことが社会のためになるはずです」

「保育園を併設して子どもと触れ合えるようにしたり、その地域らしさを取り入れたりと、コスモスモアならではのデザインとアイデアの力で、地域に住んでいる方々に喜んでいただける介護施設を生み出していきたいです」

と、担当する建設営業部の部長、宮信司は言います。
本業を通じて社会課題の解決に向かう、スチールハウスの介護施設事業。今後もご期待ください。



● リラックス空間を創り出す音響設備「KooNe」を導入

デイケアサービス施設の「カノン用賀」では、リビングルームに「ハイレゾ音源」と呼ばれる高音質・広帯域の自然音源を利用した音響設備「KooNe」を導入しています。自然の森に近い周波数のハイレゾ音源は、自律神経測定の実験においてリラックス状態を創り出す可能性が高いとみられています。施設利用者は、自然の中にいるような感覚に包まれ、自宅にいる時よりも穏やかな気持ちで過ごせている方も多いようです。この設備の導入には、間接音で部屋全体を包み込むような空間音響設計が必要となり、そこにコスモスモアのノウハウが活かされています。

eco検定

高い全社保有率を評価され 商工会議所セミナー講師依頼も

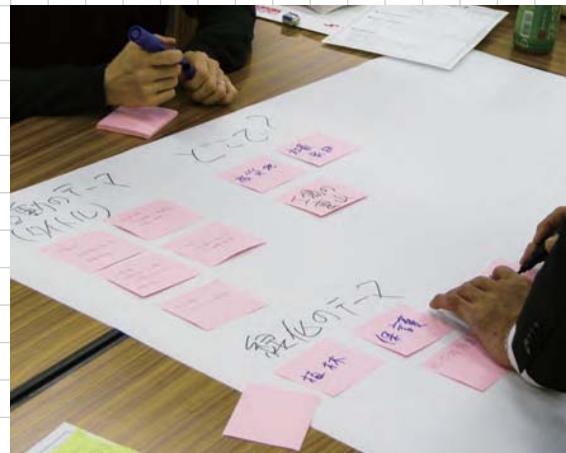


建設業界における建設系廃棄物は、大きな環境課題の一つです。コスモスマアでは、社員一人ひとりが環境への配慮を意識しながら事業を推進していくことが必要不可欠だと考え、全社員の「eco検定」受験を奨励しています。

合格者に報奨金を支給する制度を構築しているほか、CSR推進室でも検定に挑戦する社員を毎年手厚くサポート。今年度も、傾向と対策を踏まえた過去問の配布、模擬試験の実施や重点分野のレクチャーなどを行いました。

このような継続的な取り組みの甲斐あってか、受験を開始した2008年にわずか2.5%だった全社保有率は、2013年には85%を突破。その高い保有率を評価され、2014年度には、東京商工会議所主催のセミナーで「エコ活動を持続可能にするための3つのポイント」というテーマで特別講師に招かれ、さらにTVや複数の雑誌でも取り上げていただきました。

2015年2月現在の全社保有率は78.3%。今後は、受験者が所属する課のメンバーがサポートを行い、合格すると課にインセンティブが付与される仕組みを設けるなどの合格率向上策も検討し、全社員の資格保有率90%を目指します。



● エコ検定全社保有率

正式名称は「環境社会検定試験」といい、東京商工会議所が開催。多様化する環境問題が体系的に学べる「環境教育の入門編」として幅広い層に活用されている。2006年の試験開始以来、約30万人が受験し、約18万人の合格者が誕生している。



社員が続ける!

事業部の取り組みと寄付での支援!

各事業部では、環境負荷低減につながる取り組みなど、毎年業務の中で新しい挑戦を続けています。

社内の記念行事イベントとスポーツのチャリティイベントでは、CSR推進室が掲げるシーズ(種)の支援先団体と現在支援中のプロジェクトへ寄付をさせていただきました。

01. SMILE CUP(チャリティフットサル大会)



寄付先
陸前高田
スポーツグラウンドづくりプロジェクト

寄付金額
¥108,012

9月と2月の2回に渡り豊洲で開催されたチャリティフットサル大会には、住宅業界企業を中心に、延べ131名の参加者が集まりました。併設されているカフェで行った懇親会では、支援先プロジェクトで新たに見えてきた現地のニーズや課題についても参加者と共に共有し、今後の支援のあり方についても議論することができました。

02. チャリティゴルフ



寄付先
特定非営利活動法人ビッグイシュー基金

寄付金額
¥18,800

5月17日、当社とパートナー企業で組織する、コスマスモア関西安全衛生協力会のチャリティゴルフコンペを兵庫県のレークスワンカントリー倶楽部で開催しました。参加費の残額は、「3つのシーズ支援」の1つ、「特定非営利活動法人ビッグイシュー基金」が取り組む、ホームレスの人々への自立支援活動のために寄付させていただきました。

03. 記念行事イベント



寄付先
陸前高田
スポーツグラウンドづくりプロジェクト

寄付金額
¥200,000

期初の全社会議と25周年イベントで、社員やOB・OG向けにCSR活動の紹介と啓蒙の機会を設け、併せて支援中のプロジェクトへの寄付を行いました。

全社会議では、NPO法人TATAKIAGE Japan理事長の松本丈さんと陸前高田在住の武藏和敏さんにお越しいただき、講演会やCSR推進室とのパネルトークを実施。加藤久さんには、両イベントでビデオメッセージやコメントをいただきました。

2015年度の寄付金合計額

¥326,812

マンションギャラリー課

木の温もりを感じる体感コーナーを再現



西新宿に建設中の60階建マンション「ザ・パークハウス 西新宿タワー60」では、新宿中央公園と神田川に囲まれた地であることから、「緑と水、森」がテーマになっています。今回、そのマンションギャラリーをコスモスモアにて施工しました。その中で「国産木材」がふんだんに使用された共用部の体感コーナーを一般社団法人モア・トゥリーズと東京おもちゃ美術館、HITOTOWA INC. の協力を得て再現しました。

キッズコーナーには、東京おもちゃ美術館監修による、木の温もりに満ちたおもちゃを用意。木育コーナーでは、大分のアーティスト有馬晋平氏が手がけた、国産杉から生まれた造形作品「スギコダマ」も展示しています。

デザイン設計部

物と空間のシェアで廃棄物削減



デザイン設計部では、内装や外装の見本を保管するサンプルルームをリニューアルしました。

カタログやクロス、タイルのサンプルなど、資料を一元的に集約し、社内で物と空間をシェアすることで、環境負荷につながる廃棄物の削減が可能です。模型作成やスケッチができる広いデスクも設置。照明の色温度を変えることで、サンプルチェックに幅を持たせるなど、クリエイティブな作業に集中できる空間になったことで、社員の創作意欲向上も期待できます。

ファシリティ事業部

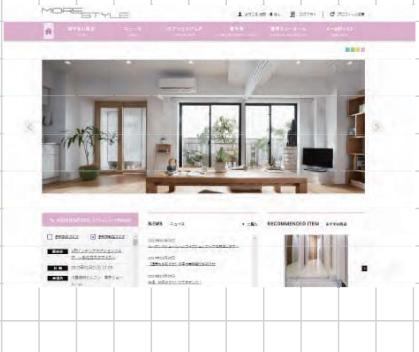
クラウド名刺管理ツール導入で業務効率化



コスモスモアでは、クラウドサービスを活用した業務効率化が進んでいます。ファシリティ事業部では、2014年に「Sansanクラウド名刺管理ツール」を導入しました。背景には、ソーシャルメディアの普及により、人脈情報を可視化して活用するメリットが認識されるようになった事があります。また、個人のスマートフォンの普及や、会社からのi-Pad支給を通じて、仕事環境を持ち歩くという働き方の変革につながっています。加えて、東日本大震災後に高まったBCP(Business Continuity Plan / 事業継続計画)の観点でも、会社が保有する個人情報を安全に管理する施策に寄与しています。

インテリアプランニング課

コミュニケーションのWeb化で紙資源削減



住宅事業部では、これまで紙媒体や電話等を通して行われていたお客様とのコミュニケーションを全面Web化しました。

これにより、厚さ1cmのカタログをWebで閲覧可能になったり、これまで全て郵送だったお得情報やお知らせ、インテリアフェアのご案内などが、コラム配信やWebでの公開に移行され、お客様の利便性が高まりました。

また、Web化に伴い、紙資源が大幅に削減されます。環境への負荷を低減しながら、作業効率とお客様満足度の向上にも寄与する業務システムを確立することができました。

緒方克吉、かく語りき

未来を創ることの感動を 地に足を 未来に目を向けて

創立25周年に感謝

2015年1月8日、コスモスモアは創立25周年を迎えました。全てのステークホルダーの皆様に、心より御礼申し上げます。創立以来、景気と市場の変化に追随し、常に商品・サービスを定点観測し続けてまいりました。これからも、企業価値を高める事を念頭に、社員と共に膨らむ夢をひとつずつ可視化していくとともに、社会性、市場性、収益性における成長と持続をお約束します。

社員の継続的な CSR活動が 協働へと発展

社員のCSR活動報告書として社内報から始まつた本誌「サスモア」も8号目となります。多くの方が関心を持つござり、ご意見もいただけるようになります。

CSR活動が
協働へと発展

の進化したことは大変嬉しいことです。また、CSRセミナーの開催や、地域共生活動、チャリティ活動など、CSR推進室と社員が継続してきた取り組みも、クライアント、協力パートナー会社にまで協働が進んでいます。社員も増える中で「eco検定」取得率を高い水準で維持し続ける事も、私たちのこだわりのひとつです。

地元の方々との出会い

昨年は、協力パートナー会社の方々に同行いただき、福島市内の浜通りから居住制限区域にも足を運ぶ機会を得ました。人のいない街を見た時、何も解決していない現実に触れ、引き続き私たちができる事を継続する意思を再確認しました。

津波の被害を受けた陸前高田市にサッカーフラウンドとクラブハウスをつくるプロジェクトでは、ジュビロ磐田のゼネラルマネージャーである加藤久さんや現地コーディネーターの武藏和敏さん、一般社団法人上長部の郷の菅野恵二郎さんに出会う事ができました。加藤久さんの復興への想い、サッカーを通じて子どもたちに未来へのメッセージを送りたいという想いに共感し、当社もクラブハウスの設計からデザインのサポートをする機会をいただきました。子どもたちが笑顔で走り回る姿を今後とも応援していきたいと思います。

当社では、CSR基本方針として「東日本大震災復興支援」を掲げており、今回のクラブハウスの建設支援は、昨年の福島県いわき市の「起業家支援ワーキングスペース」のプロボノ

コスモスモアのCSRの軌跡

SUSMORE ROADMAP

2011



しっかり根を張って

2010



大きく育てる年に。

2009



芽生えの年です。

2008



われみちの年かも。

事業での取組み

事業と持続可能性の共存!!
首都圏外郭放水路見学

事業での取組み

ファシリティ事業部
「eco-toオフィス」

事業での取組み

業界初!コスモスモア初!
カーボンオフセット商品

星川編集長が行く

中央防波堤埋立処分場/
挑戦!ゼロエミBBQ

代表取締役社長 緒方克吉

“私たちが、もう一步踏み込むために必要な課題は、「本業を通じた社会貢献を展開すること」。それが当社の「NEXT VALUE FOR THE CUSTOMER」に向けた挑戦です。”



活動に続く社外活動となりました。
今後も継続的に復興支援活動を続けていきたいと考えています。

本業を通じた 社会貢献にむけて 「サスラボ」

私たちが、もう一步踏み込むために必要な課題は、「より事業に密接に関わるCSR活動」であり、「本業を通じた社会貢献を展開すること」です。

この課題意識から、国産材を活用した商品開発を行うCSLプロジェクトを開始しました。一般社団法人モア・トウリーズ・HITOTOWA INC.の協力を得て、社内12名が参加してくれました。建築とデザインを営む当社にとって、国産材を多く流通させることは大きな使命ですが、企画設計段階から理念と意思を強く持つて採用しない限り、具現化する事は困難でしょう。商品の社会的意義をお客様に伝えることが私たちの使命です。乞うご期待ください。

このプロジェクトを起点に、持続的な「本業を通じた社会貢献」を全社に浸透させていきます。それが、当社の「NEXT VALUE FOR THE CUSTOMER」に向けた挑戦です。



2015



Creating Shared Value
事業を通じた社会課題解決へ



2014



これからのCSR



2013



実りある時代へ



2012



豊かな森をめざして

サスモア2015 デザインに込めた想い

サスモアの表紙に描かれているのは、

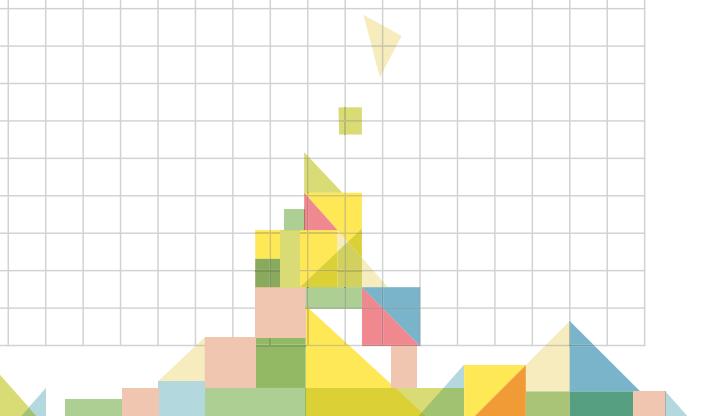
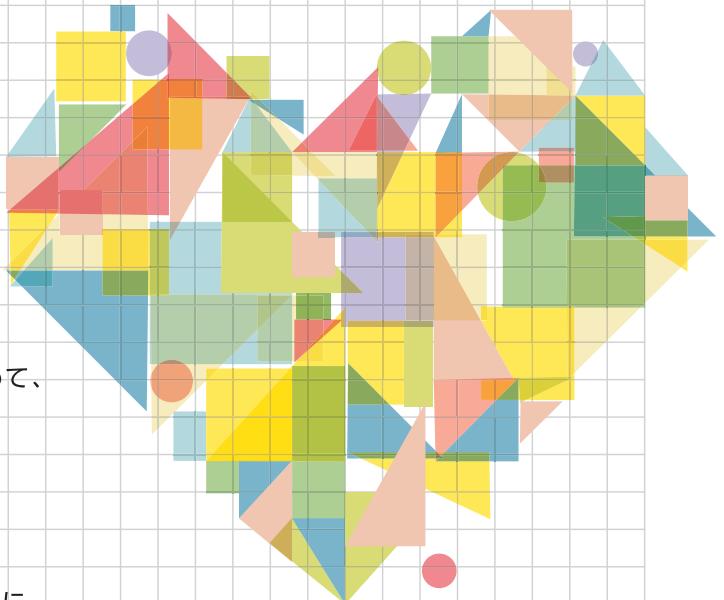
もっと感動がある もっと想いが深まる
もっとドキドキする もっと胸が熱くなる

そんな「もっとハートが動くCSR」をカタチにした、
コスモスモアの「more♥heart(モア・ハート)」。

これまで、社員一人ひとりの想いや行動のカケラを集めて、
コスモスモアらしいCSRのカタチをつくりました。

そして今、そのカケラ同士が少しずつ積み上がって、
モア・ハートの鼓動が高鳴り始めています。
一人ひとりのアクションが生みだす彩りも、よりビビッドに。

これからも、想いをもっと積み上げていきたい。
そんな願いをデザインに込めて、
サスモア2015を皆さんにお届けします。



2015

SUSTAINABILITY REPORT OF COSMOS MORE



発行人：小川陽平

編集人：高田祐一、永拓也、小川将克、
安藤晶子、吉町佳奈

編集委員：板垣直子、門脇毅佳、寺本亮介、
土居直人、仲久美子、生沼篤史

編集後記

募金や身近なエコ活動から始めたCSR。今では
本業を活かした協働にまで支援の輪が広がって
います。サスモアをきっかけに、これからも繋が
りを生みだせたら幸いです。（小川将克）



寄付・社員ボランティア支援分野の枠組み

MAIN & SEEDS

コスモスモアのCSR活動は、社員ボランティアや事業の主軸となる「MAIN（メイン支援）」、寄付や協働、情報交換などを行う「SEEDS（シーズ支援）」によって構成されています。

MAIN（メイン支援）

東日本大震災復興支援

社員ボランティアの積極参加を行うことが基本となります。

また、継続的な支援を目指し、現地での事業性についても追求していきます。

岩手県・宮城県・福島県

東日本大震災の復興支援、
特に福島についての取り組みを増やしていきます。

SEEDS（シーズ支援）

各団体との関係性を構築しつつ、情報収集や研究開発を行います。

また、寄付も続けていきます。

環境・国産材活用・農業



NPO法人GoodDay
<http://www.goodday2u.org/>

moreTrees®

一般社団法人モア・トゥリーズ
<http://www.more-trees.org/>

国内貧困層の住宅問題
社会性の高い住宅研究開発



特定非営利活動法人
ビッグイシュー基金
<http://www.bigissue.or.jp/>

女性・学生の社会進出



特定非営利活動法人
ハビタット・フォー・
ヒューマニティ・ジャパン
<http://www.habitatjp.org/>



コスモスモア

Daiwa House Group®